

コフロックは、設置場所を選ばない屋外型ガス発生装置を充実することで顧客ニーズに応えていく。今回、窒素ガス発生装置で3機種の屋外型をラインアップに加え、コンプレッサー内蔵型では2・2キワから22キワまで、コンプレッサー別置型では2・2キワから55キワまで揃うことになった。設置場所やコストなどの課題からユーザーの要望に応え、ラインアップを増やしていく。

ガスは近年高騰が続ぎ、中東情勢によってさらに上昇傾向を強めている。そのためコスト優位性のあるガス発生装置への関心が高まっている。ただ、主要なガス発生装置は屋内型のため設置場所が制限され、また使用する場所までの配管費用などのコストが大

屋外型ラインアップ充実

コフロック



小型から大型まで屋外設置型を揃えたNEⅡシリーズ

きな負担となっている。同社では設置が容易ながら騒音や排熱など屋外型の課題をクリアしたコンプレッサー内蔵型ガス発生装置「GENE-B」を

図っている。

ASE」を2018年に投入、窒素、酸素、クリーンドライエア(CDA)の3機種を用意し、累計で150台以上が採用されている。現在、こうした実績を生かし屋外型で市場拡大

今回、メインの窒素ガス発生装置で屋外型を充実させた。オイルフリースクロールコンプレッサー内蔵型で2・2キワから7・5キワをラインアップする「N2IMPACTⅡ」シリーズに25年から屋外型を追加したほか、同じく25年から屋外型対応の「NTE」シリーズを投入した。さらに今年からは「NEⅡ」シリーズでコンプレッサー出力が11キワ、15キワ、22キワのタイプそれぞれに屋外仕様を加えた。窒素ガスはハンダ付け工程や食品、レーザー加工などさまざまな業種で使用されており、今回、小型から大型まで屋外設置型を揃えたことで選択肢が広がると期待する。今後ユーザーニーズに合わせた提案を図っていく方針で、その一環としてアフターサービスにも力を入れていく。現在、東京、京都、福岡にメンテナンス拠点を設置し、万全を期している。